**■正岡子規**　　**俳人，歌人，文筆家。病臥する中，日本の近代俳句・短歌の方向を提示，決定的な影響をもたらして早世。**
まさおかしき
**大政奉還**・・1867＝　　伊予国藤原新町(松山市)で，松山藩士の長男に生まれる。
**明治維新**・・1868＝ 1歳：

**学問のすすめ**1872＝ 5歳：父が死去し，家督を相続。叔父の後見と母の裁縫内職で生活し，
**明治6年政変** 1873＝ 6歳：智環学校に入学。在学中から漢詩を試み，絵や軍談を好む。

三つの反乱・1876**＝ 9歳：**

琉球処分・・1879＝12歳：回覧雑誌を作る。勝山学校を卒業。
・・・・・・1880＝13歳：**_松山中学に入学。学友とグループを作り，詩文に熱中。投稿の漢詩が新聞に載ったり，文集を纏める。**
**明治14年政変**1881＝14歳：

岩倉具視没・1883＝16歳：政治を志し，東京遊学のため松山中学を中退して上京。共立学校で高橋是清に学ぶ。
秩父事件・・1884＝17歳：旧藩の育英給費生となり，進文学舎で坪内逍遥に英語を学んだのち，**_東京の大学予備門に入学。**
内閣発足・・1885**＝18歳：**哲学を志望するが学年試験に落第し，**_和歌，俳句に手を染めるようになる。在学中ベースボールに熱中。**
初の対等条約1888＝21歳：**_予科から本科に進む。「七艸集」を執筆。この年，最初の喀血。**
**帝国憲法発布**1889＝22歳：**_夏目漱石を知る。再び喀血し，時鳥の句を作り，子規と号する。**
帝国議会始・1890＝23歳：**_漱石と文章論を交す。予備門が校名を改称した一高を卒業。文科大学哲学科に入学。**
足尾鉱毒始・1891＝24歳：**_国文学科に転科。房総紀行「かくれみの」，木曽紀行「かけはしの記」を作る。その他，各地を旅する。**
**大本教**・・・1892＝25歳：***陸羯南の縁で日本新聞社に入社。国粋発揮の思想的な影響を受ける。「月の都」を幸田露伴に見せ文壇への進出をはかったが，成功せず俳句に専心，「獺祭書屋俳話」を連載して，俳句革新に着手。明治初年から勢いを得てきた短詩否定の風潮の中で俳句の可能性を見きわめる決意を固め，新しい文学概念で俳諧を見直し発句を独立させて，一句の季節詩の俳句とした。**
郡司千島探検1893＝26歳：**_東大国文科を中退。{日本}に俳句欄を設けたり，芭蕉の評論や俳句分類に熱中。**
**日清戦争始**・1894**＝27歳：**_{日本}の発刊停止に備えた{小日本}の編集主任となり，「月の都」など連載するが，廃刊となる。
**日清戦争終**・1895＝28歳：**_日清戦争を背景に"日本"の自覚の昂まりの中で従軍，帰国の船上で喀血。「日本」に「俳諧大要」連載。**
白馬会・・・1896＝29歳：***カリエスによる病臥の生活に入ったが，{日本}を通じて多くの啓蒙的な論文を執筆連載。**
八幡製鉄始・1897＝30歳：**_松山で創刊された{ホトトギス}を指導。**
**子規句歌革新**1898＝31歳：***同誌を東京に移し，俳諧趣味を鼓吹する雑誌とした。短歌革新に着手，「歌よみに与ふる書」を{日本}に連載，「万葉集」の尊重を説き，実作では日常生活を写生した格調の高い作品を示した。**
**ﾋﾟｱﾉ国産化**・1900＝33歳：**_写生文を提唱，{ホトトギス}誌上でも風物の写生的短文を募集。子規の口述を虚子が筆記する中で精細な描写と洗練された口語文体が定着した。**
田中正造直訴1901＝34歳：晩年には，写生の極致は"自然"にあるという幅広い考え方に移行。***衰弱苦痛著しい中で，「墨汁一滴」，**
教科書疑獄・1902＝35歳：***「仰臥漫録」「病牀六尺」など日録の随筆に生かし，病床の出来事を描写するほか，考証，評論などにも自在な筆運びを見せたが，肺結核で没した。**

新潮日本文学アルバム，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，山田風太郎「人間臨終図巻」，「目でみる日本人物百科」，歴史有名人の死の瞬間，